

## 総合政策研究科ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

### <博士前期課程>

総合政策研究科博士前期課程においては、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、次のような人材の養成を図ります。

- 1 法律・行政・経済・経営政策や地域社会・環境政策において、高度かつ専門的な知識を持ち社会に貢献できる人材
- 2 公共政策や企業における先見的な経営方針を策定・評価できる人材
- 3 地域社会・環境問題に対する専門的調査・分析能力を備えた人材
- 4 地域振興をはじめとする国内外の諸問題に対応するために、専門的かつ学際的な知識を駆使できる人材

総合政策研究科は、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、博士前期課程においては学位『修士（学術）』を授与します。

### ◇学生が修了までに身につけるべき能力

研究テーマにかかわらず学生が共通に身につけておくべき能力は以下の4つの能力です。

- DP 1 自然や社会における現象の中から問題を発見し、適切な研究課題を設定できる
- DP 2 問題に対して専門的な調査分析を行い、理解を深めることができる
- DP 3 問題の解決のために、自らの専門分野だけではなく、他の分野の視点を踏まえた総合的な思考ができる
- DP 4 思考の結果を適切な方法で第三者に伝えることができる

### <総合政策研究科博士後期課程>

総合政策研究科後期課程においては、本学の建学の理念、教育の特色、教育研究上の目的を踏まえ、次のような人材の養成を図ります。

- 1 法律・行政・経済・経営政策や地域社会・環境政策において、高度かつ専門的な知識を持ち社会に貢献できる人材
- 2 公共政策や企業における高度に先見的な経営方針を策定・評価できる人材
- 3 地域社会・環境問題に対する高度に専門的調査・分析能力をそなえた人材
- 4 地域振興をはじめとする国内外の諸問題に対応するために、高度に専門的かつ学際的な知識を駆使できる人材
- 5 上記各項目のより高度な能力を修得し、地域課題や国際的な課題の解決に寄与するとともに、研究者や教育者として活躍できる人材

総合政策研究科は、本学学則に定める修了要件を満たした学生を、次に掲げる「学生が修了までに身につけるべき能力」を備えたものとして、学位『博士（学術）』を授与します。

#### ◇学生が修了までに身につけるべき能力

学生が修了までに身につけるべき能力は以下の5つの能力です。

- DP 1 学界に対し学術的に貢献しうる先進的な研究課題を設定できる
- DP 2 問題に対して専門的な調査分析方法を適切かつ効果的に適用できる
- DP 3 問題の解決のために、学際的な視点を踏まえた考察ができる
- DP 4 思考の結果を学問的に厳正な方法で他の研究者に伝えられる
- DP 5 研究の過程を適切な方法で管理できる

## 総合政策研究科カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

総合政策研究科では、ディプロマ・ポリシーを満たす人材を育成するために、以下の方針で教育を実施します。

### <博士前期課程>

博士前期課程に、「公共政策」、「企業経営」、「地域社会・環境」の3分野に関する授業科目を開講します。授業科目には、[講義科目]、[演習・実習科目]、[研究指導科目]の3種類を設定します。

[講義科目]は、[領域専門科目]と[政策系科目]に分けられます。[領域専門科目]は、専門領域に関する学術的知識を学ぶ科目で、[政策系科目]は、社会問題を学際的・多角的視点で捉え、政策的に思考する科目です。専門家・研究者にとって必要な専門知識と、総合政策研究科らしい政策的視点の双方を身につけることを期待しています。

[演習・実習科目]は、講義科目で学んだ知識を活用し、発表・討論、分析・操作、現地調査など、実践的な知識・技能を演習・実習形式で学ぶ科目です。必修の【総合政策演習】は、複数の教員からなるチームで指導します。その他の演習・実習科目は、学生の専門性などの必要性に応じて適宜開講します。

[研究指導科目]は、【研究指導】の1科目で、必修です。修士論文の作成に向けて、学生はそれぞれの指導教員の下で入学時から修了時まで連続した研究指導を受けます。

働きながら修士号取得を目指す学生のために、授業開講時間帯や授業開講場所（滝沢キャンパス/アイーナキャンパス）について、学生の要望を考慮して柔軟に対応します。

研究テーマの設定、研究計画の立案、研究計画の実行、進捗の振り返り、いずれも研究過程で必要な行程です。学生には、在学中の毎年度初めと終わりに、研究計画書と研究成果報告書を指導教員と相談のうえで作成し、提出する義務を課します。

研究・論文作成において必要な研究ルールを理解するために、1年次に研究者倫理に関する学習プログラムの受講を課します。

### <博士後期課程>

博士後期課程においては、研究者や実務専門家として必要とされる専門知識と高度な技能を修得するための講義科目として[特別研究科目]を設置します。それに加えて、博士論文の作成に向けた研究指導を入学時から修了時まで同一の指導教員から受ける[研究指導科目]を設置します。

学生はそれぞれの指導教員が開講する特別研究科目と研究指導科目を必ず履修しますが、自身の関心や研究遂行上での必要に応じて他教員開講の特別研究科目も履修できます。

働きながら博士号取得を目指す学生のために、授業開講時間帯や授業開講場所（滝沢キャンパス/アイーナキャンパス）について、学生の要望を考慮して柔軟に対応します。

博士論文の完成に至るまで、学生を1人の研究者・実務専門家として扱います。在学中の毎年度始めと終わりに、研究計画書と研究成果報告書を指導教員と相談のうえ作成し、提出する義務を課します。

博士論文の作成に至る過程で研究者に必要なルールや研究倫理を再確認するために、1年次に研究者倫理に関する学習プログラムの受講を課します。

【総合政策研究科 博士前期課程】カリキュラム・マップ

学年 目標  ディプロマ・ ポリシー	1年次	2年次
		・教員の指導のもとで修士論文作成に向けた研究計画を明確にする ・研究計画の遂行に必要な専門知識（公共政策や企業における先見的なマネジメントの方針に関する策定・評価手法や地域社会・環境問題に対する専門的調査・分析能力）の基礎を身につける
DP 1 自然や社会における現象の中から問題を発見し、適切な研究課題を設定できる	講義科目 演習・実習科目 研究指導科目	講義科目 研究指導科目  研究計画書 修士論文
DP 2 問題に対して専門的な調査分析を行い、理解を深めることができる	講義科目 演習・実習科目 研究指導科目	講義科目 研究指導科目  修士論文
DP 3 問題の解決のために、自らの専門分野だけではなく、他の分野の視点を踏まえた総合的な思考ができる	講義科目 演習・実習科目 研究指導科目	研究指導科目  研究成果報告書・研究成果報告会 研究計画書 修士論文
DP 4 思考の結果を適切な方法で第三者に伝えることができる	演習・実習科目 研究指導科目  研究者倫理教育	研究指導科目  研究成果報告書・研究成果報告会 研究計画書 修士論文

【総合政策研究科 博士後期課程】カリキュラム・マップ

学年 目標  ディプロマ・ ポリシー	1年次	2年次	3年次
		・博士論文作成に向けて必要となる専門知識を身につける ・専門分野に関する高度に専門的な知識・能力を身につける	・博士論文作成に向けて、計画的に研究を実施する ・学会等で研究成果を発表し、専門研究者間で学術的な意見交換ができる
DP 1 学界に対し学術的に貢献しうる先進的な研究課題を設定できる	総合政策特別研究 総合政策特別研究指導	総合政策特別研究 総合政策特別研究指導  研究計画書	総合政策特別研究指導 研究計画書
DP 2 問題に対して専門的な調査分析方法を適切かつ効果的に適用できる	総合政策特別研究 総合政策特別研究指導	総合政策特別研究 総合政策特別研究指導	総合政策特別研究指導
DP 3 問題の解決のために、学際的な視点を踏まえた考察ができる	総合政策特別研究 総合政策特別研究指導	総合政策特別研究 総合政策特別研究指導  研究成果報告書	総合政策特別研究指導  研究成果報告書
DP 4 思考の結果を学問的に厳正な方法で他の研究者に伝えられる	総合政策特別研究指導  研究者倫理教育	総合政策特別研究指導  研究成果報告書	総合政策特別研究指導  研究成果報告書
DP 5 研究の過程を適切な方法で管理できる	総合政策特別研究指導  研究者倫理教育	総合政策特別研究指導  研究成果報告書	総合政策特別研究指導  研究成果報告書